

## 平成 28 年度 社会福祉法人ひつじ事業報告

平成28年度の事業は、既に、平成27年度計画で示したことを粛々と行うことであり、その内容は、マスタープランに基づく中長期に渡って障害を持つ人たちの生活支援の充実を計ることと、幾つか予定されている施設整備を行うことであった。粛々という表現は、ややもすると大袈裟に思えるかもしれないが、その先に予定されていることへの取り組みが中途半端ではないものになることが分かっていたからとっていいだろう。予想通りというか、それ以上の衝撃をもってというべきか、平成28年度の後半の事業は、急転直下の激変に曝されることになった。否定的な意味を持つてのことではない。「学び舎あいまいもこ」は予定通り敷地面積の拡張工事に着手する準備を始め、問題なく、平成29年度事業へと引き継がれることになった。その意味では、粛々といいたいだろう。これに対して、国県の補助金が付かないことが決まり、蛭池計画は断念するしかないと思っていたところが、第3次補正予算で「えひめ」と「あぼかど」の施設整備が認められ、蛭池計画は復活することになった。これが平成29年2月の出来事だったが、その1ヶ月前には、掛川市より、平成30年度からはプロポーザル方式によって、相談支援と地域活動支援センター事業を委託することにしたと、伝えられた。つまり、「生活支援センターいつでも」は、平成29年度をもって、永久にではないにしても一旦は掛川市からの委託が受けられなくなることが急遽一方的に私たちはこれを聞くことになった。このときから急に慌しくなった。これが平成28年の年越しをした平成29年1月から始まったのだ。施設整備が決まったことは大いに喜んだし嬉しかった。プロポーザルの話は、一旦先が見えない世界に引き込まれることなので、厳しくもあり悩みも深いものになっていった。この問題への本格的な取り組みは平成29年度からとなる。「生活支援センターいつでも」問題は、掛川中央3丁目で行って来た事業を、この先どの様な事業に転換させるかという課題への挑戦と、もう一つの「生活支援センターいつでも」は、専ら森町の人たちが利用するための施設として進むことになる。

この1年を振り返ると、静かに滑り出した事業があれこれに飛び火しながら何処でどう収まるかまだ分からない状態で平成29年度を迎えることになったので、一言総括するならば、全ては平成29年度にあり、となるだろう。

ここにはその多くは書けないのでその要点のみに触れておくと、「学び舎あいまいもこ」の取り組みについて、場を提供することの意味、プログラムを提供し学習して貰うことの意味、個別面接で発達障害の特徴理解について取り上げる意味、などは、近々、職員にとって共通の認識をもって、これを受け止めて貰うことをしなくてはならないと思っている。特に、統合失調症への接近法と発達障害のそれとは、大きく異なることがあるので、急がなくてはならない宿題になっていると思っている。

### ● 理事会・評議員会開催

開催日	出席数/理事総数 出席数/評議員総数	議題
H28.5.27	7/7 (書面1) 11/15	① 平成27年度事業報告について ② 平成27年度決算報告について ③ 諸規定の変更について ④ 施設長の人事について ⑤ 袋井市施設整備事業について
H28.11.22	6/7 14/15	① 平成28年度中間事業報告、決算報告 ② 平成28年度第1次資金収支補正予算書(案)について ③ 定款変更について ④ 運営規定の変更について ⑤ 学び舎あいまいもこの事業について ⑥ 相談支援、地域活動支援センター事業(掛川市、森町)について
H29.3.16	12/15	① 「理事」、「監事」の選任について
	4/7 (書面1) 12/15	① 平成28年度最終補正予算(案)について ② 平成29年度事業計画(案)および当初予算(案)について ③ 森町相談支援、地域活動支援センター事業について ④ 生活支援センターいつでもについて

		⑤ 蛭池施設整備事業について ⑥ 学び舎あいまいもこ増築工事について ⑦ 諸規程について ⑧ 施設長の人事について ⑨ 「苦情解決第三者委員」の選任について ⑩ たんぼぼ共同作業所施設整備計画について
	12/15	① 「理事長」の互選 ② 評議員の候補者案について

● 評議員選任解任委員会開催

H29.3.22	4/4	① 評議員の選任について
----------	-----	--------------

● 苦情解決報告

事業所名	申出人	受付者	苦情内容	対応・処理内容
はたらき (H29.7.13 夜)	通所者	第三者 委員 高 橋氏	松下さんがやくざのよ うに怒った。	翌朝、訪問する。怒った理由 は本人が約束を破ったから であることを伝える。約束 は守ろうという話しもす る。本人は、誤解でしたと通 所を継続している。

**障害福祉サービス事業**

事業所名：学舎いろいろ（就労B）・ぼちぼち（生活介護）

1. 事業所概要

- |         |                         |                   |
|---------|-------------------------|-------------------|
| (1) 所在地 | 磐田市見付 5883-5            | 磐田市豊浜 424-6       |
| (2) 種別  | 就労継続支援（B型）              | 生活介護              |
| (3) 営業日 | 月曜～土曜 9:00～16:00        |                   |
| (4) 定員  | 20名（就労継続B型 14名、生活介護 6名） |                   |
| (5) 規模  | 建築面積 78.66㎡ 木造 2階建      | 建築面積 46.69㎡ 木造 2階 |
| (6) 職員  | 常勤8名 非常勤1名              |                   |

2. 事業実施状況 ※下段（ ）内は昨年度の実績

	就労継続B（14）	生活介護（6）	備考
開所日数	316日	316日	
登録者数	24人	9人	
1日あたりの平均利用者数	11.6人 (9.09)	5.7人 (6.4)	
平均工賃（月額）	5,289円 (5,823)	(-)	

3. 活動の成果と今後の課題

（就労継続支援B型事業）

新規利用者の増加がみられた。若い年齢層の増加もあり、作業スピードの向上がみられる。反面、人の入れ替わりや作業内容の変化に戸惑う利用者もいる。生活面で不安を抱えている利用者も多いことから、個々のペースを尊重し取り組んでいる。買い物代行の事業化に向けてまずは職員が意識をもって動いていきたい。

（生活介護事業）

多機能施設の特性を生かし、事業所としての関わりを継続したままサービス種別を変更するケースが数件あった。具体的には、Aさんのケースでは、病状が安定したので、生活介護事業から就労継続B型事業へ移行した。Bさんのケースでは、就労継続B型事業を利用予定だったが、不安や緊張が高いため、安定するまで、生活介護事業を利用することになった。

今後も、食事、入浴、洗濯、散歩など利用者に応じたきめ細かな支援を提供していく。具体的には引きこもりがちな C さんを訪問し続けたら、定期的な利用ができるようになり、「生き物が好き」という D さんに、メダカ係をお願いしたところ、生き生きと笑顔が見られるようになった。軽作業やスポーツ、レクリエーションを合同で行い交流することで互いの活性化に繋げていきたい。

## 事業所名：たんぼぼ共同作業所

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市福田中島 138
- (2) 種別 就労移行支援事業、就労継続支援 B 型事業、日中一時支援
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20 名（就労移行 6 名、就労継続 B 型 14 名）
- (5) 規模 建築面積 168.08 m<sup>2</sup> 木造平家建
- (6) 職員 常勤 7 名、非常勤 1 名

### 2. 事業実施状況

	就労移行（6）	就労継続 B（14）	日中一時
開所日数	336 日	336 日	
登録者数	6 人	28 人	
1 日あたりの平均利用者数	4.2 人 (3.9)	16.2 人 (16.5)	2 人
平均工賃（月額）	14,756 円 (21,290)	13,746 円 (13,979)	

### 3. 活動の成果と今後の課題

就労について：平成 28 年度は、就労移行から 1 名が就職し、継続 B からは 1 名がトライアル雇用を開始しています。移行利用者のうち 1 名は就職にチャレンジしたものの、病状の悪化で退職しましたが、その後も継続してたんぼぼへ通所し、リズムを整えて再挑戦に向けて頑張っています。昨年度以前の就労者についても、気軽にたんぼぼへ顔を出し、就職後も気軽に相談ができる場となっています。今回トライアル雇用を開始した利用者は長年作業所を利用していた方ですが、たんぼぼへの通所を重ね、様々な作業をこなし、地道に経験を積むことで、病状が安定し作業能力も向上し、トライアル雇用の機会を得ることが出来ました。今後も、それぞれのペースを把握し尊重しながら、就労へ向けての働きかけも続けていきます。

工賃について：就労移行の工賃については昨年に比べて減少しましたが、利用者の入れ替わりがあった結果と考えています。継続 B の工賃について、時間額にすると増加していますが、通所が不安定だったり作業時間が短い利用者が増加したため、月額では減少しています。

生活について：各職員が、気配り、目配り、心配りを行うことにより、利用者のちょっとした変化に気づけるようになってきました。利用者の行動の予測をすることができ、トラブルやハプニングそのものを予防するのではなく、利用者自身が自分の力で対応できるように支援できるようになってきました。様々なトラブルがありますが、その都度各職員がそれぞれの職員なりの対応を取ることができ、利用者が安心安全に通所できる場所作りを担っています。また、ご家族や医療機関、市、相談支援事業所とも連絡相談を行い、総合的支援に当たっています。今後も、安心して居ることのできる環境づくりを引き続き行い、通所の不安定な利用者については、医療機関とも連携を取りながら支援を行っていきます。

また、発達障害の利用者が増えたことにより、感情の爆発が作業所内でも起こるようになりました。みんなが自分の居場所を確実に守り、他者の居場所を不用意に侵さないよう配慮していきます。

作業について：限られた作業空間を整理整頓し、スペースが少し増えました。利用者一人ひとりに合わせて作業を振り分け、それぞれの精神状態に合わせて作業場所を変えることができるようになりました。また、一人ひとりがそれぞれにたんぼぼでの時間の流れに慣れ、楽しんで作業を行うことができるようになっていきます。なんでも屋の作業に関しても、多種多様な作業を受注することにより、より多くの利用者が参加できるようになってきました。『たんぼぼの外で仕事をする』ということに関しても、多くの利用者が積極的に手を上げることができるようになってい

す。

全体として：利用者、職員、それぞれに力をつけているように思います。日々の忙しさに流され、物事の本質を見失わないよう、立ち止まって振り返ることも行っていきます。

## 事業所名：学び舎あいまいもこ

### 1. 事業所概要

- |         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| (1) 所在地 | 袋井市久能 2497-12                   |
| (2) 種別  | 就労移行支援事業・自立訓練（生活訓練）事業・日中一時事業    |
| (3) 営業日 | 月曜日～土曜日 9:00～16:00              |
| (4) 定員  | 20名（就労移行10名、自立訓練（生活訓練）10名）      |
| (5) 規模  | 木造平屋建て160.23㎡、木造平屋建て58.38㎡（厨房棟） |
| (6) 職員  | 常勤9名、非常勤3名                      |

### 2. 事業実施状況

	就労移行（10）	自立訓練（10）	日中一時
開所日数	323日	323日	323日
登録者数	13人	13人	6人
1日あたりの平均利用者数	7.7人 (8.1)	6.4人 (6.7)	2人 (1.9)
平均工賃（月額）	4,804円 (5,780円)	2,310円 (3,421円)	973円 (255円)

### 3. 活動の成果と今後の課題

「学び舎あいまいもこ」の命名は素晴らしいと、現袋井市長は、7年前の施設開所式の時のそのように言った。名は体を表す。だから私も、それでいいと思って来た。しかし、最近違う感想を持つことが多くなった。「曖昧模糊」と漢字では書く。これを平たくいうと、「何かもやもやしていて、輪郭もはっきりせず、どうにでも受け取れてしまうこと。」となるだろう。だから「あいまいもこ」だった。発達障害を持つ人たちが学習を重ねていくと次第に定型発達者のような能力を発揮できる人間に変わるわけではないから、「何かもやー」とした姿がそのまま生かされることを期待した。これはこれでいいのだろう。私の単に気持ちの話だからだ。しかし、大雑把に発達障害は脳の機能障害で、そもそもは発達の指標となる各領域の発達が凸凹だから、という説明がされているし、私もそのように理解してきた。如何ともし難い頑なさを持った人に出会うとさすがに私も根負けしてしまうが、多くの発達障害と呼ばれる人たちは、断片的な記憶とエピソードとしての体験がまさにジグソーパズルの塊のようになっていた状態から、その追体験を、言語を用いて情緒的に表出して貰うことを繰り返していくと、乖離していたものが一つの物語として内在化されていくことを一緒に経験するようになった。こうなると、「何かもやー」としたものも、多少変化してくるので、「もやー」とはしていても、言葉を通して雰囲気を通して、何かに通じるようになるし、高い緊張状態を維持しなくもなってきた。自身の疲れを「体がだるい」「体が重い」「肩がこるようになった」など言うようになった。

これが今年一年の取り組みの成果です。というには、一寸馴染まないものであることは重々承知をしているが、ここ数年意識的に取り組んで来ての成果であることには違いはない。少し取り組み始めたことがあるので、ここにそれを記しておくことにしよう。今後の課題とはどうなるのかということ。それは、「学び舎あいまいもこ」の増改築に合わせて、活動場所を区分けすることや、プログラム内容を今よりも枠組みを明確にし硬いものにすることや、定期的な個別面接を職員が出来るようにすることなど、となるだろう。

## 事業所名：メンタルサポートみこち

### 1. 事業所概要

- |         |                       |
|---------|-----------------------|
| (1) 所在地 | 掛川市逆川 111-1           |
| (2) 種別  | 就労移行支援事業、就労継続支援 B 型事業 |
| (3) 営業日 | 月曜～土曜 9:00～16:00      |
| (4) 定員  | 20名（就労移行6名、就労継続B型14名） |
| (5) 規模  | 建築面積 397.00㎡ 鉄筋平屋建て   |

(6) 職員 常勤7名、非常勤3名

## 2. 事業実施状況

	就労移行(6)	就労継続B(14)	備考
開所日数	334日	334日	日曜日開所の場合あり
登録者数	4人	37人	
1日あたりの平均利用者数	2.4人 (3.5)	17.2人 (17.5)	
平均工賃(月額)	14,087円 (13,041)	11,486円 (10,518)	

### 3. 活動の成果と今後の課題

就労支援事業については、厨房事業において、民生委員・児童委員の会議での注文を多くいただきました。注文を何度かいただくうちに、利用者、職員とも、100個単位の弁当作りに慣れ、作業の流れもスムーズになりました。

平成28年度も、就労移行支援サービス利用者が1名就職しました。また、就労継続支援B型利用で、短時間トライアル雇用制度(1年間)を使っている利用者也、28年9月から現在に至るまで、仕事を続けています。もう1名は、他の多機能事業所のB型利用後、A型の利用が続いています。共通して言えることは、仕事を始めた後のアフターフォローが大切であるということでした。特に、精神に障害を持つ方の場合、職場でいろいろな場面を刺激として感じ、自分のことを悪く言われているのではないか、などという思考につながる傾向にあり、また、それを誰にも言えず消化できないまま気持ちが沈んでしまい、仕事を休むということもあるため、時々話を聞いて気持ちの整理をする、また職場へ出向くなどの支援をする必要があります。

また、27年度に続き、28年度も「就職した人の話を聞く会」を開催しました。就職した元利用者2名、現利用者5名、職員3名の10名が参加しました。就職者が苦勞している点、また工夫している場面などを聞いて、質問をしたり感想を話すだけでなく、利用者が、普段あまり話すことのない自身の就労経験について語るなど、その場に参加した全員が、なにかしらの発言をしました。

生活の支援としては、一人暮らし、高齢の親と同居などの方について、特に細やかに行う必要がありました。正しい服薬、体調不良時の家族への報告は、本人だけでは困難なこともあります。また、現在は、障害年金、自立支援医療、障害者手帳、受給者証などの制度・サービスを利用するにも、それぞれの更新手続きなど、事務手続きが多く、混乱が生じやすいと言えます。また、視線恐怖のため、一人で市役所に行くのが大変、という方もいます。それぞれの方の困りごとに、その時に応じた支援が必要です。日頃より、利用者の様子がいつもと違うなどということに、早めに気づき声をかける、また、本人の生活等で変化があったときは、いつもより注意して見守ることができるよう、職員内での情報共有を、打ち合わせ等でまめにおこないます。

## 事業所名：居処どこでも

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 御前崎市白羽5372-28
- (2) 種別 自立訓練(生活訓練)事業、就労継続支援B型事業
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名(自立訓練(生活訓練)6名、就労継続B型14名)
- (5) 規模 建築面積 111.79㎡ 木造平家建
- (6) 職員 常勤 5名、非常勤 1名

## 2. 事業実施状況

	就労継続B(14)	自立訓練(6)	備考
開所日数	311日	311日	
登録者数	18人	2人	
1日あたりの平均利用者数	9.2人 (6.4)	0.9人 (1.5)	
平均工賃(月額)	13,218円		

### 3. 活動の成果と今後の課題

#### <自立訓練（生活訓練）>

籠りがちな生活を送っている人たちが、定期的に通所することで生活リズムを安定させるための利用が主となっています。「就労」等の明確な目標が持てない状態にある利用者が多く、通所開始時は順調でも、途中で通所目的や意味を失い通所中断に至ることがありました。生活訓練の目的は「日常生活能力の維持・向上」となっています。中断する前に、通所目標を職員間・利用者本人と確認し合い相談し合えるような関係を作っていくことが課題となります。

#### <就労継続B型>

施設外支援に積極的に取り組んだ結果として、平均工賃アップが成果として現れた1年でした。内職作業種目も1種目増やしましたが、職員は日々の作業を回すことに追われ納品・検品等の細かい管理がままならなくなりましたが、利用者自身は興味や関心に沿って参加する作業を選び前向きに作業に取り組んでくれています。職員の手が行き届かない分、納期などを意識しながら責任を持って作業に取り組む利用者が増え「働く場所」として良い雰囲気を作ることができています。その一方で、利用者が増えたことで障害種別や利用目的が多岐に渡るようになりました。作業に集中できなかったり、通所をしてきても作業に長時間は参加できない利用者も増えます。作業を通しどのようなことを利用者さんに体験・経験してもらうのか、1人1人に対する支援のポイントを今一度整理していく必要を感じています。

#### 事業所名：はたらき

##### 1. 事業所概要

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| (1) 所在地 | 袋井市久能 2497-16           |
| (2) 種別  | 就労移行支援事業、就労継続支援B型事業     |
| (3) 営業日 | 月曜～土曜 9:00～16:00        |
| (4) 定員  | 20名（就労移行 6名、就労継続B型 14名） |
| (5) 規模  | 建築面積 313.64㎡ 木造2階建      |
| (6) 職員  | 常勤 6名、非常勤 1名            |

##### 2. 事業実施状況

	就労継続B（14）	就労移行（6）	備考
開所日数	315日	313日	
登録者数	27人	7人	
1日あたりの平均利用者数	15.6人 (12.8)	3.7人 (1.7)	
平均工賃（月額）	10,081円 (10,296)	12,696円 (11,003)	

### 3. 活動の成果と今後の課題

今年度は就労移行から1名、就労継続から2名の利用者が就職しました。現在も就労継続中です。短期のアルバイトをしながら、就職を目指している人もいます。また、職業訓練を受講する利用者もいました。

お弁当の宅配事業は安定して注文を受けることができました。一人暮らしの高齢者や、高齢者世帯の方の利用は現在も増加傾向にあり、地域に必要とされるサービスであると実感しています。メンバーは月2回の勉強会で調理の知識の習得や技術の向上に努めてきました。今後はよりよい商品やサービスが提供できるよう、ミーティングをしながら、メンバー自身が考え、学び、喜びを感じられる仕事にしていきたいと思っています。

その他の作業についても、メンバーが自分たちで作業を進めていけるように働きかけてきました。現在は内職作業が中心となっていますが、施設外での作業プログラムも必要と感じています。

3年目となったはたらきの活動は、利用者が増え、事業所の課題が明らかになった年でもありました。毎日、定員に近い利用者が通所してくるようになった一方で、利用が途切れてしまう人、うまくプログラムにのれない人も出てきています。それぞれの利用者に合わせてプログラムと支援体制の強化が必要と感じています。

## 相談支援事業

事業所名：生活支援センターいろいろ

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市見付 5883-5
- (2) 種別 指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業・指定障害児相談支援事業
- (3) 営業日 月曜～金曜 8:30～17:30
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 78.66㎡ 木造2階建 (学舎いろいろ内)
- (6) 職員 常勤 1名 非常勤 1名

### 2. 事業実施状況

	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	254日	
年間計画作成数	142件 (163)	(モニタリング含む) うち児童 13件

### 3. 活動の成果と今後の課題

磐田市より児童の計画受け入れ件数を増やせないかと打診あり。市内でも児童の支援施設が増えていることが背景としてあるが、現状としては成人の計画を主として行っている。

今後の課題としては、制度上の仕組みや各事業所の特徴を知り、つなぎ役を担うことの必要性を感じる。より生活に沿った形で関係機関との連携や調整など協力関係を築いていきたい。

事業所名：生活支援センター袋井いろいろ

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市久能 2497-16
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（袋井市委託事業）  
指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～19:00 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 151.0㎡ 木造平家建
- (6) 職員 常勤3名、非常勤3名

### 2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	365日	311日		
年間実利用者数	165名 (168)	75名 (70)		
年間延件数、利用者数	4,570件 (5,177)	6,621名 (5,825)		
1日平均件数、利用者数	12.5件 (14.2)	21.3名 (18.7)		
年間計画作成数			311件 (282)	(モニタリング含む) うち児童 101件

### 3. 活動の成果と今後の課題

相談支援では、電話相談から障害福祉サービスにつなげる、医療機関からの紹介で関わりが始まるケースが増えました。また、将来の不安や孤独による寂しさを訴える電話も数多くありました。支援している人の多くは中高年の単身生活者で、日中活動の支援に限らず、家事や近所づきあい、通院など生活全般の支援を必要としています。本人との会話の中の日常の困りごとを聞き逃さないよう、丁寧に向き合っています。地域活動支援センターの活動は新規利用者を増やし、定着させる

ことを目標に運営してきました。毎日の送迎、昼食づくりなど継続して行っています。相談支援事業と同じく、利用している人の多くは中高年の方で、こちらでも生活全般の支援を必要としています。今後、市や地域包括支援センターとも連携をとりながら支援していく必要があると感じています。サービス利用計画作成については、放課後デイサービスの事業所が市内に増えたため、障害児の新規作成依頼が多くありました。児童の計画作成には親との関わりが重要ですが、親も問題を抱えるケースが多く、対応に苦慮しました。この数年間で相談支援や計画作成で関わる方は発達障害やその傾向が強い方が断然多くなっています。発達障害についてきちんと勉強し、適切な関わりが出来るようにしていくことは今すぐにやらなければいけない課題です。

## 事業所名：生活支援センターいつでも

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 掛川市中央3丁目143番地
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（掛川市・森町委託事業）  
指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～19:00・日曜 9:00～17:00  
時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 102.12㎡ 木造2階建
- (6) 職員 常勤3名、非常勤3名

### 2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	365日	311日		
年間実利用者数	200名 (201)	97名 (94)		
年間延件数、利用者数	8,888件 (9,242)	3,919名 (3,920)		
1日平均件数、利用者数	24.4件 (25.3)	12.5名 (12.5)		
年間計画作成数			192件 (193)	(モニタリング含む)

### 3. 活動の成果と今後の課題

28年度は29年度からの掛川市・森町それぞれの単独委託に向けて、各市町の相談・地域活動支援センター事業の見直しを行ってきた。

相談事業・センター事業ともに数字的にはほぼ横ばいとなっている。

掛川については、処遇困難と言われるようなケースが増えてきていると感じている。また、昨年度の事業報告で行ったグループ活動については、2つのグループ活動を統合し、出張地活と位置付け名前を「サロンいつでも」とし南部地域で月2回開催した。思っていた以上に送迎の範囲が広く、送迎に時間を取られることとなったが、資源のない南部地域での利用者が少しずつ増えて来たことは予想通りであった。

次年度は予算の都合と市からの要望があった週6日開所を踏まえ、開所時間を9時～19時から9時～17時までとし、サロンいつでもについては外出先がない利用者のことも考え、月1回に減らして存続することとした。次年度については事業化を考えていくため、拠点探しから行って行くこととする。

森については、単独委託に向けて拠点探しを行ってきたが、地域の理解が得られずに29年度は袋井いろいろを間借りすることとなった。28年度までは中央3丁目に通ってきた利用者の行き場も考えて、森町保健福祉センターの一室を週1回借り、居場所や相談の場として当面やることとした。拠点探しについては早急に見つける必要があり、現在も継続して探している。

事業所名：生活支援センターいつでも おまえざき

## 1. 事業所概要

- (1) 所在地 御前崎市白羽 6171-1 御前崎支所 2階
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（御前崎市委託事業）  
指定特定相談支援事業、指定一般相談支援事業、指定障害児相談支援事業
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～17:30 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 御前崎支所 2階
- (6) 職員 常勤 2名、非常勤 1名

## 2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用 計画作成数	備考
開所日数	365日	311日		
年間実利用者数	80名 (83)	40名 (43)		
年間延件数、利用者数	2,504名 (2,005)	974名 (737)		
1日平均件数、利用者数	6.9件 (5.5)	3.1名 (2.4)		
年間計画作成数			31件 (27)	(モニタリング含む)

## 3. 活動の成果と今後の課題

相談支援事業については、継続利用者が占める割合が昨年度よりも増えました（昨年度 4割、今年度 7割）。これは、問題解決のための一時的な支援だけでなく、本人が取り戻した安心で安全と感じられる日常生活を維持・安定していくために継続的な支援を必要とする利用者が増えていることが要因の1つと考えています。

地域活動支援センターについては、送迎回数を増やした（週2回→週3回）ことで定期的・継続的な通所をされる方が増えました。また、時間の経過とともに地域の中にある居場所の1つとして定着したことで利用者1人1人の利用回数は増加傾向にあります。

課題としては、利用者にとって今以上に回復に向けた有益な支援を提供できる事業所になるよう内容の見直しを行っていくことです。すでに、御前崎市からはいくつかの要望が寄せられました。今後は、利用者が後退しないよう生活の仕方を再学習する機会を提供していくこと、回復に必要な支援だけでなく今後起こりうる課題も予測し事前に対策を講じられるようアセスメント機能を向上させること、当事者による体験発表会など社会参加につながる企画をしていくこと、などに取り組んでいくこととなります。

### 日中一時支援 ※公益事業

事業所名：ごん太

## 1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市浅羽 1912
- (2) 種別 日中一時支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～16:00
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 43.0㎡ プレハブ
- (6) 職員 非常勤 7名

## 2. 事業実施状況

	日中一時	
開所日数	121日 (212)	
1日あたりの平均利用者数	1.3人 (1.2)	

1 ヲ月あたりの平均利用者数	18.8人 (21)	
----------------	---------------	--

### 3. 活動の成果と今後の課題

「ごん太」の事業成果について触れることは、現在、休止状態になっているので難しい。評価をする方が分かりやすくなるくらいだ。なぜかという、年老いて尚も激しい人たちの行き場を作ることが、「ごん太」開始の理由だったからだ。いくら行き場がないといっても、それなりに、その場で、他人と過ごせれば行き場に困ることはなくなるからだ。年老いて尚も激しい人という彼の場合は、不貞腐れることと、他人と付き合いといても、惨めな自分を見せたくなかったし、嫌味を言いながら優位な位置を保持することに拘った。そればかりか、否定的な自分を持っていることを誰かに気付かれるのを気にするあまりに、喧嘩を売って見たり、毒づいて人を怒らせたりすることをわざとやったりもした。こうして彼は孤立した。孤独だったと思う。しかし、彼が人を求める時のやり方は、往々にして心裏腹なやり方。人は彼に愛想尽かしをし、近寄らなくなった。孤立して孤独を嫌と言うほど体験することになったのは、若さゆえの激しさと衝突など跳ね飛ばして過ごせた時が過ぎて、まさに「侘しさ」が身に應えるようになってからだった。

現在、彼はそろそろ70を数えようとする年齢になった。その彼が、20歳前後の人たちとそれなりに、その場で、他人と過ごすようになった。こうした彼から感じられることは、人は「孤立」してはならない、「孤独」な生活を送るようになってはならないということだ。孤立の延長に孤独があり、孤独が意味するものは、絶望があるからだ。

こうして、「ごん太」は、平成28年度の中途、彼が「学び舎あいまいもこ」を利用するようになってから、休止状態になっている。